

～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

[第113回] 浪費・消費・投資



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL: <https://sien.co.jp/>)代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

遅くなりましたが、新年あけましておめでとうございます。本コラムも113回目となりました。9年半、拙文をお読みいただき感謝申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

2020年以來の3年間で、社会や人々のマインドは随分と変わりました。マスクが当たり前というなか、幼い子供達は「マスクなしの世界」を知りません。遠足、修学旅行、運動会、催し物、部活が禁じられたことで、情操教育が十分にできませんでした。同時にリモート授業などで学生達の学力が相当に落ちているという話も教育関係の方から聞きました。

それまで順調に伸びていた人類の知能指数(IQ)が低下し始めたのは1975年からでした。先進国におけるビデオの普及と共に徐々に知能指数が落ち始め、1995年からのインターネットによりさらに下がりました。昨今のスマホの普及でますます「受け身型」が進むとともに、「負のプリン効果」として知能指数まで低下しています。子供達においては以前と比べて3歳ほど知能が遅れているとも言われますが、この「3年」に及ぶ様々な悪影響は計り知れません。

組織の中の機能不全

組織の中でもこの3年間の混乱は大きな傷を与えているようです。コミュニケーションの不足や帰属意識の希薄化に加えて、何よりもきちんと成長してもらいたいと考えていた若者の成長が止まり、中堅幹部の空洞化などが目立ちます。また、組織自身も驚くほど時代変化に関する感度が鈍く、知識や情報の更新ができていません。「古い情報」や「ひとつ前の意識」で物事を考えるように見えます。大手マスコミが垂れ流す「偏向情報」を後生大事に抱え込み、右往左往しているように見えます。本来育成とは、“適切な時期”に“適切な方法”で行わなければならないのですが、厳しい行動制限のなかでは、思うように動くことができませんでした。社会人としての常識を学んでいない若者や管理職として身に付けなければならないスキルを磨く機会を失い、組織の中が停滞してしまっています。

リアル統計を読み解く

最近の倒産件数は随分と減りました。1985年には年間2万件を超えていた倒産件数も6千件ほどまで減っています。2008年のリーマンショックの時に1万5千件程度だったのでコロナ禍の中で一見穏やかに見えます。しかし、休業廃業又は解散した企業数は4万4377件です(2021年・中小企業白書より)。国の支援策である持続化給付金によってなんとか持ちこたえていた企業も水面下では厳しい状況を迎えています。こうした厳しい経営環境を経営幹部の方々に共有できているのでしょうか。国の支援や金融機関の温情を期待するだけではもはや企業は生き残れません。

人材育成が急務!

- 浪費…価値のないものに時間や金を費やすこと
- 消費…必要なものに時間と金を使うこと
- 投資…未来のあるべき姿を目指して時間やお金をぶち込むこと

さて、企業経営のあり方もまた変革を求められています。まさにその時に、人や情報、設備に対する「浪費」はありえません。そして、「消費」だけで満足していませんか。さらに、「投資」できない個人や組織に“明日”はないでしょう。果たしてその事に気づいているのでしょうか。中小企業白書によれば、後継人材の不足率は6割を超えています。つまり、次の世代を担う人間を育てていなかったツケが企業の足元に迫っているのです。今や人材育成は最も重要な「投資」になりました。

経営者の意思と覚悟

全国には約360万社の中小企業があります。個人事業主が約112万人。全ての【経営責任者】が目を見開いて現実と対峙しなければなりません。緻密で冷静な現状分析と将来への現実的な計画。そして行動を起こさなければあつという間に時代遅れとなり消えて行きます。

組織の未来を担う若き人材はいますか? バラバラになりがちな組織をまとめてくれる幹部社員はいますか? 何よりも経営者自身が強い意志を持って組織の先頭に立っていますか? まさに勝負の年が始まりました。